

# アウトリーチ

## 通信



第 31 号

2018 年 3 月 20 日 発行  
年 2 回 発行

神戸女学院大学音楽学部  
アウトリーチ・センター

出てくるベートーヴェンの第九の演奏を交えながら、指揮者の仕事のすばらしさを伝えます。スクリーンに絵本の画像を映し出し、語りの進行に従って、ベートーヴェン作曲《交響曲第9番》の四つの楽章から抜粋（二台

子どものための

コンサート・シリーズ

スペシャル・コンサート

「子どものための・スペシャル・コンサート」指揮者つてな  
あに?」(子どものためのコン



学講堂で  
開催しま  
した(十一  
時開演、来

舞台上でただ一人音を出さない  
出演者である指揮者が、一体

こうしろう)を使って、そこに

次に、指揮者の役割をお話と



場者・子どもも百十名、大人百三十五名、計二百四十五名。  
出演は、指揮者の

何をしているのかを子どもたちに分かりやすく伝えるために、オーケストラ曲をピアノとパーカッションのアンサンブルに編曲して(いずれも松浦修編曲)お話と演奏で綴りました。

ピアノ、ティンパニー、シンバル、トングルの演奏は「指揮者

コンサート・シリーズ第  
四十八回)  
を十月二  
十八日  
(土)、本  
学講堂で  
開催しま  
した(十一  
時開演、来

高津小百合(音楽学部一年生)と  
の二名、パーカッションの山田  
りさ(大学院音楽研究科二年生)  
と前田紗希(同一年生)、山下す  
みれと山本瑞葉(共に音楽学部  
三年生)の四名、そして語りの  
高橋輝(同四年生)の計八名で  
す。

でみんなの気持ちとたくさん  
の音を一つの音楽に導く」と伝え  
ました。



実演で具体的に示します。①「曲想を示す」役割をチャイコフス



キー作曲

≪白鳥の

湖≫より(情

景)(二台ピ

アノ、ティン

パニー)で、

②「合図を

出す」役割

を同曲の

(スペインの踊り)(ピアノ、ティンパニー、タンバリン、カスターネット)

で、③「テンポを示す」役割を

同じく(チャルダッシュ)(二台

ピアノ、ティンパニー、シンバル、ト

ライアングル、バスターラム)で示し

ました。ビデ

オ・カメラで

撮った指揮

者の表情を

スクリーン

に映し出し

たり、タンバ

リンとカス

タネットが



さまざまな奏法を見せながら会場を練り歩いたりといった工夫をしました。

前半の締め括りは、ハチャト

ウリアン作曲(剣の舞)(ピアノ、

ティンパニー、スネアドラム、シロフ

オン、チューブラーベル)。よく知っ

ている曲をお姉さんたちが本気

で弾いたので、子どもたちも食

い入るように聴いていました。

休憩後は

「体験して

みよう」のこ

ーナー。会場

から希望の

子どもを募

つて、指揮台

から指揮に



挑戦です。曲はビゼー作曲(カ

ルメン)より(前奏曲)(二台ピ

アノ、ティンパニー、シンバル、トラ

イアングル、バスターラム)で、子ど

もの棒の振り方によって速くな

ったり遅くなったりしました。

最後に、ムソルグスキー作曲

の組曲(展覧会の絵)を語りつ

きの抜粋で演奏しました。堂々とした(プロムナード)(二台ピアノ)に始まって、ちよつと怖い

(グノーム)(二台ピアノ、ティン

パニー、シンバル、スネアドラム、ラ

チェット、ムチ)、重々しい(ビド

ロ)(二台ピ

アノ、ティン

パニー、スネアド

ラム、バスターラム)、

一転して軽快

な(卵の殻を



つけた雛の踊り)(二台ピアノ、ティンパニー、シンバル、トライア

ングル、スネアド

ラム)、沈み込

むような(死者

とともに死の言葉で)(二台ピ

アノ)と進み、(バーバ・ヤガーの

小屋)(二台ピアノ、ティンパニー、

トライアングル、スネアドラム、シン



エフの大門)(二台ピアノ、ティンパニー、トライアングル、シンバル、バスターラム、タムタム、チューブラーベル)で高らかに解放して、九十分の充実したコンサートを終えました。

終演後の楽器体験でも、フル

ートとヴァイオリンに加えて

「指揮者体験」や「いろいろな

打楽器の体験」コーナーが設け

られて、活況を呈しました。

会場アンケートでは、「指揮者

の役割が子どもにもよく分かっ

てよかった」「日頃使っているタ

ンバリンやカスターネットが魅力

的に見えた」

「打楽器の

種類が多く、

ふだん見る

ことのない

楽器に触わ

れて喜んで

いた」といった意見を頂きました。

(アウトリーチ・センター長

津上智実・記)



## クリスマス・コンサート

「子どものためのクリスマス・コンサート」わたしのステキなプレゼント」(「子どものためのコンサート・シリーズ」第四十九回)を十二月九日(土)、本学講堂で開催しました(十一時と十五時半の二回公演、来場者は計七百三十名)。

出演は本学大学院音楽研究科一年生の荒木この美(声楽)、市川真衣、金丸史奈、鹿島久美子、中まゆり(以上、ピアノ)、岩本紗綾(ハープ)、前田紗希(パーカッション)の七名です。

子どもにとってクリスマスといえ、プレゼント!というところで、今回は舞台上に置かれたいくつものクリスマス・プレゼントを一つ一つ開けていきながら、プレゼントのモチーフにちなんだ曲を演奏するというストーリー仕立てのコンサートと

ました。

オープニングは、影アナの鹿島がこのコンサートのコンセプトを紹介したのち、チャイコフスキー作曲『くるみ割り人形』より(金平糖の踊り)をピアノ、ハープ、グロッケン編成で演奏しました。そして、本日のコンサートの進行役兼ストーリーの主人公である「女の子」役の荒木が舞台上に登場します。一つ



目、プレゼントを開けると、中からは花束が出てきました。「お花のいい香りに包まれて、なんだか踊りだしたくなっちゃう!」というセリフに続いて、オープニングと同じ『くるみ割り人形』より(花のワル

ツ)をピアノ連弾とハープで演奏しました。



二つ目のプレゼントの中身は天使の形で、演奏したのはマスカレード二作曲(アヴェ・マリア)。ハープとマリリンバの楽器紹介が行われ、ハープは岩本、マリリンバは前田がそれぞれその魅力を伝えました。特に、ハープの足元に七本の



ペダルがついているという説明には「知らなかった」という声も上がり、実演すると大人も子どもも興味津々の様子でした。マリリンバの説明では、見た目はピアノの鍵盤と似ていることや、マレットを片手に二本ずつ、計四本を持って演奏するということをメインに紹介しました。



「次はどのプレゼントを開けてみようかなあ」と言うと、「あれがいい」「これがいい」という子どもたちの反応を受けて、次の箱を開けると中身はマラカス。マラカスからはサンバを連想し、ミヨー作曲の『スカラムーシュ』より(ブラジルの女)を二台ピ



アノで演奏  
しました。ま  
た、先に演奏  
したワルツ  
とサンバと  
の違いも説  
明しました。

ここで前  
半のプログ

ラムを終え、市川と金丸の進行  
でアクティビティのコーナーへ  
と移ります。《きらきら星》の音  
楽に合わせて、会場全体が一体  
となってリズム遊びをしました。  
二種類のリズム・パターンを最  
初はゆっ  
くりとし  
ましたが、  
最後には  
「歌いな  
がら速  
く」とい  
う指示に、子どもだけでなく大  
人も夢中になっているのが印象



的でした。「リズム遊びが楽しか  
ったから家に帰ってもやってみ  
ます」という感想が終演後に上  
がるほどの盛り上がりを見せま  
した。

後半のプログラムは、ドビュ  
ッシー作曲《月の光》から始ま  
りました。ピアノ独奏曲として  
有名なこの曲を、今回はハープ  
とマリンバの編成で演奏しまし  
た。楽器紹介をした後の演奏で  
あったためか、子どもたちはハ  
ープのペダルの動きやマリンバ  
の演奏の様子も真剣に見ながら  
聴いているようでした。

続いて、「みて、みて！こんな  
ところにもプレゼントがあった  
よ！」と聞こえてくる声に会場  
中がキョロキョロ。客席後部の  
二階ベランダから小さなグラン  
ド・ピアノの模型を見せたあと、  
ピアノ・ソロによるショパン作  
曲の《黒鍵》がはじまると、再  
び舞台上へ注目が集まりました。

最後の演奏曲は、バーンスタ  
イン作曲のオペラ《キャンディ

ード》より《きらびやかに着飾  
って》です。ユニークな曲調に  
合わせて、プレゼント・ボックス  
からネットクレスを出したり、  
伴奏の金丸が前に出て踊ったり、  
途中、女の子  
が泣く場面で  
は笑い声が上  
がるなど、コ  
ミカルな演出  
で盛り上がり  
を見せました。



舞台上に残る最後のプレゼン  
トを開けると、中身は空っぽ。  
ここで「本当に大切なものは目  
に見えないんだよ」という言葉  
と共に、誰かを大切に思う気持  
ちこそ贈り物になるということ  
を伝えました。

ストーリー仕立てによる演奏  
が終わった後、松尾璃奈編曲の  
《クリスマス・メドレー》を会

場にいる全  
員で歌いま  
した。有名  
なクリスマス  
・ソング  
で構成され  
ていたので、  
歌詞カード

を見なくても大きな声で楽しそ  
うに歌っている子どもたちがた  
くさんいました。

終演後は、恒例の楽器体験コ  
ーナーです。ピアノにマリンバ、  
ヴァイオリン、トーン・チャイ  
ム、そしてハープも登場し、珍  
しい楽器の体験に長蛇の列がで  
きました。出演者によるお見送  
りでは、一緒に写真を撮ったり、  
「楽しかった」「音楽やってみた  
くなったよ」という声を直接聞  
いたりすることができて、ここ  
からも自然と笑顔が溢れました。

(荒木この美・記)



西宮市立鳴尾北幼稚園

九月二十九日（金）十一時から、西宮市立鳴尾北幼稚園（西宮市花園町十一・二十、園長・河崎祥子先生）遊戯室にて、園児を対象に「秋色ハーモニー」と題したコンサート（四十分）を行いました（ピアノ・松本祐佳、

太田春菜、声楽・高橋輝、種村ひかり、フルート・橋本詩織）。「秋を感じられる」「子どもたちが学びを得ながら飽きずに楽しめる」をねらいとして、プログラムを

考えました。入場後、ハロルド・アーレン作曲（虹の彼方に）

園児たちからも笑顔がこぼれます。ハーモニーのよさを感

じてもらおうと、フランク・チャールズ作曲（狼な



した。続いて音色紹介も織り交ぜて、ヘンリー・クレイ・ワーカー作曲（大きな古時計）をフルートで独奏しました。

次は渡辺茂作曲（ふしぎなポケット）の独唱で、楽しい雰囲気を作ります。手作りの大きなポケットから次々とクッキーが出てくると、

園児たちか

らも笑顔がこぼれます。ハーモニーのよさを感

をピアノとフルートをバックに独唱して、コンサートへの入口としま



んかこわくない」をピアノ連弾で、さらに小林秀雄作曲（まっかな秋）などの秋の童謡が詰まった（秋メドレー）を二重唱で歌いました。

今度はピアノに着目し、鍵盤

の数のクイズで園児とのコミュニケーションションを図った上で、シヨパン作曲（幻想即興曲）をピアノ独奏しました。技

巧的な演奏に子どもたちも目が釘付けになっていました。



ここからは会場の子どもたちに加わってもらって、（大きな栗の木の下で）を振りつきで歌いました。三種の動物に例えて速



さを設定し、遅いテンポや速いテンポへといろいろに変えていくと、園児たちは音を聴いてうまく合わせて、ゲーム感覚で楽しんでくれて、こちらもうれしくなりました。（童謡メドレー）を歌った後、鳴尾北幼稚園の園歌を全員で元気に歌いました。いずみたく作曲（手のひらを太陽に）をアンコールとして、コンサートを締めくくりました。園児たちとの距離が近く、素直な反応を間近に感じながら、温かい雰囲気です。実習を終えられたことに感謝の気持ちでいっぱい

（太田春菜・記）

# 野木病院

十一月四日（土） 十三時四十

五分から医療法人社団佳生会野木病院 サービス付き高齢者向け住宅「あけの」（兵庫県明石市魚住町長坂寺千三十一）にて「オータム・コンサート」ピアノと歌による愛の調べ」（六十分）を行いました（ピアノ・城ヶ崎彩圭、太田春菜、声楽・糸田麻里絵、種村ひかり）。

今年度から野木病院に新しくグラランド・ピアノが設置されたので、その魅力が生かせるようなプログラムをめざしました。

まずビゼー作曲の歌劇《カルメン》より

〈前奏曲〉

をピアノノ

連弾で

華々しく

奏で、続いて



ラを独唱して、オペラの世界を楽しんで頂きました。次はピアノの柔らかい

音色を生かして、ブラームス作曲《ワルツ》作品三十九より第十五番《愛のワルツ》を連弾しました。モーツアルトの歌劇《フィガロの結婚》より《マルチェリーナとスザンナの二重唱》は演技付きで歌ったので、楽しんで頂くことができました。

ここで、音楽を使った頭の体操をして盛り上がりました。続いては、聴

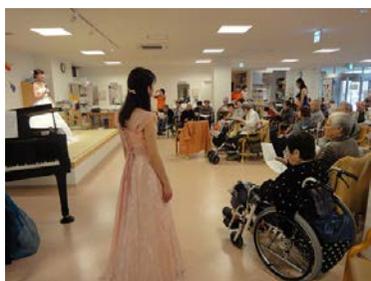


きなじみのあるドビュッシー作曲《ベルガマスク組曲》より第三曲《月の光》をピアノ独奏で、シューマン作曲《ミルテの花》作品二十五より《献呈》を独奏で演奏。後奏に

ヘ・アヴ エ・マリアの旋律が出てくることもお話しました。同じくシューマン作曲《幻想小曲集》作品十二より第六番《寓話》をピアノ独奏したところ、初めて聞く方も多かったようですが、緩急のあるメロディーに耳を傾けて下さいました。次に演奏したブラームスの《ハンガリー舞曲》より第五番には、興味を持った方があって、終演後に「何て曲名だった？」と声をかけて頂きました。



外国の曲が続いたので、次は日本の歌です。山口景子編曲《秋メドレー》（まっかな秋）ちいさい秋みつけた、村祭、紅葉を二重唱でお聞かせした後、《赤とんぼ》《里の秋》《ふるさと》の三曲を皆様と一緒に歌って、会場が一つになる醍醐味を味わいました。アンコールには、祈りを込めて《アメイジング・グレイス》を歌いました。



退場の際には、温かい拍手と共に「また来てね」と声を掛けて頂いて、とてもうれしかったです。皆様と一緒に音楽の一時を過ごせたことに感謝します。

（種村ひかり・記）

# 兵庫中央病院

十一月九日（木）十四時から国立病院機構兵庫中央病院（三田市大原十三―四）にて、「歌とピアノによる、秋のスペシヤル・コンサート」（四十五分）を行いました（声楽・糸田麻里絵、高橋輝、種村ひかり、ピアノ・城ヶ崎彩圭、太田春菜）。

今回は、愛と秋をテーマに、有名なクラシック曲と、昔からなじみのある童謡を盛り込んだプログラムにしました。



連弾で演奏し、続いて同オペラより「ハバナラ」を独唱しました。次に、ブラームス作曲《十

六のワルツ》作品二十九より「愛のワルツ」とも呼ばれる第十五番をピアノ連弾で披露しました。

ここで勢

囲気を変えて、モーツァルト作曲のオペラ《ファイガロの結婚》より《スザンナとマルチ



エリーナの二重唱》を日本語で歌いました。衣装を役柄にふさわしいものに替えて、お芝居もつけたので、視覚的にも楽しんで頂けたと思います。



まず、ビゼー作曲のオペラ《カルメン》より《前奏曲》をピアノ

次に、アクティビティです。渡辺茂作曲《ふしぎなポケット》を使って、歌いながら濁音では手を



叩き、半濁音では膝を叩くというリズム遊びをしました。ちよつと難

しいなどという顔の方もいましたが、それでも皆さん、楽しんで参加して下さいました。

再び演奏です。ピアノ独奏で



ドビュッシー作曲《ベールガマスク組曲》より第三番《月の光》を、

独唱でシューマン作曲《ミルテの花》作品二十五より《献呈》を演奏しました。次に、山口景子編曲の《秋メドレー》で小林秀雄《まっかな秋》、中田喜直《ちいさい秋みつけた》、南能衛《村祭》、岡野貞一《紅葉》を二重唱で歌いました。



最後に、皆さんと軽くストレッチをして、歌う前の準備体操をしてから、山田耕筰作曲《赤とんぼ》、岡野貞一作曲

《ふるさと》を一緒に歌って締め括りとしました。アンコールには、ジョン・ニュートン作詞《アメイジング・グレイス》を三重唱で歌いました。

演奏中は、お客様の笑顔があちこちで見られ、感動で涙を流す方もあって、音楽の力を改めて実感することができました。終演後には「ありがとう」という言葉をたくさんの方から頂いて、私たちにとっても心温まる時間となりました。

（糸田麻里絵・記）

## 雲雀丘学園小学校

十二月十五日（金）、雲雀丘学園小学校（宝塚市雲雀丘四一〇一）、音楽教諭・山本雅子先生、岡村圭一郎先生）で、四年生四クラスを対象とした実習

（各四十分）を行いました（ピアノ・松本祐佳、渡部里紗、声楽・糸田麻里絵、種村ひかり、上野緑）。



「モーツアルトのアンサンブル」をテーマに、モーツアルトの作品からアンサンブルのおもしろさが伝わる曲を選んで、最後にクリスマス・ソングを組み込みました。独唱から五重唱まで、多彩な編成の歌を展開して、アンサンブルでは心を合わせて演奏することが大切だということ

を全体を通して伝えました。



最初に、

オペラ《フイガロの結婚》より二重唱《どうぞお先に、美しい奥様の演技つきのイタリヤ語でミ

ニ上演しました。衣装をつけて登場したスザンナ役が、お芝居でこの曲に至る状況を説明し、演奏中には日本語訳の吹き出しをフレーズ毎につけて、オペラの世界を楽しんでもらえるよう工夫したので、曲の内容もよく伝わったと思います。

次にピアノ連弾《ソナタ》K.三八一を演奏。モーツアルトがお姉さんと連弾するために書いたと言われている曲と説明しました。

アクティビティでは、《鏡のカノン》の一部をキーボードと児童のリコーダーとでアンサンブルしました。二人一組になっ

て、一つの楽譜を上と下から見ると同時に演奏する曲なので、人と一緒に演奏するという実感を感じることができました。一時間目はここで手間



取ってしまいい、後半のプログラムを割愛する形になったので、次の時間

から改善を重ねていきました。四時間目には、次の独唱《静けさがほほえみながら》も含めて、すべてのプログラムをきれいに収めることができました。

三重唱の《アヴェ・ヴェルム・コルプス》では、音楽教諭の岡村圭一郎先生がバリトンで助演して下さいました。先生の歌う



姿に、子どもたちも興味津々で聴いてくれました。クリスマス・ソングは、五重唱

の《ひいらぎかざろう》の後、二曲を皆で歌いました。《きよしこの夜》では二番にオブリガートを加え、《ジングル・ベル》では洒落たアレンジのピアノ伴奏とベルでより華やかに歌い上げます。クラス毎の違いや時間配分の大切さを学んで、意義深い実習となりました。



（上野緑・記）

## 子どものための 音楽作りワークショップ

十月十四日（土） 九時三十分から十六時まで音楽館ホールで第八回「楽器で遊ぼう！子どものための音楽作りワークショップ」を行いました。これは本学音楽学部が東京音楽大学との連携プロジェクトの一環として実施している音楽作りワークショップ特別研修（十月十、十一、十三、十四日の計四日間）の最終日に、学生の学びの仕上げとして企画されたものです。



の計二十人。講師はオリヴィア・ブラッドベリー、ジェーム

一年生から五年生まで

ズ・アダムス、東瑛子の三名（いずれも英国ギルドホール音楽院の大学院修士課程リーダーシップ・コース修了者）で、参加学生は院生・卒業生を含めピアノ四人、ミュージック・クリエーション三人、音楽二人、パーカッション、オーボエ各一人、その他一人の計十二名です。



「身近な音から音楽を作る」を目的として、秋をテーマに「自然」「天候」「祭り」の三グループに分かれて曲作りをし、それらを組み合わせ一つ一つの曲としました。

まず、沖縄民謡の「エイサー」を使って体をほぐしたり、「どんぐりころころ」と「虫のこえ」

の一部を歌ったりして、場の雰囲気慣れたところで、各人が自分の名前を体の動きと共に紹介しました。一人だと恥ずかしい子も、学生と一緒に名前を言うことができました。



次に各自が楽器を持って、皆で短い曲を作りました。講師の巧みなリードで、曲作りを始めていく様子に、子どもたちも楽しそうでした。

楽器の種類別に三つのグループに分かれて、曲作りを始めました。一グループ六、七人の子どもに講師一人と三、四人の学生で、五分程度の曲を作りました。子どもからグループのテーマに合った音を聞き出し、学生がリ

ードしました。いろいろと工夫が必要で、予定以上に時間がかかりましたが、たくさん意見を出し合うことができました。



三グループの曲と最初に作った短い曲とを繋いで一つの曲にまとめ上げ、お迎えの保護者の前で発表しました。短い練習時間でしたが、全員で集中して演奏することができたので、たくさん拍手を頂きました。

子どもたちが「楽しかった！」「次も来たい！」と口々に言ってくれたり、反省会では一人一人の疑問に講師の三人が丁寧に答えてくれたりして、充実した時間になりました。

（久笹怜芳・記）

履修生紹介

四年生(十五期生八名)からの

メッセージ

糸田 麻里絵(音楽)



アウト  
リーチを  
通して、一  
つのコン  
サートを考  
え作り上げ  
るために

は、プログラム構成やMCの言葉、演奏の質など、細かいところまで責任を持たなければならぬということを学び、仲間と共に深く考え、話し合い、練習を重ねました。私たちが演奏することで、笑顔になる方や涙を流す方があって、私はその表情を見て、今までに経験したことのない感動を味わうことができました。アウトリーチを履修してよかったですと心から思います。

城ヶ崎 彩圭(ピアノ)



この授  
業では、四  
年生の一  
年間にた  
くさんの  
実習があ  
ります。実

習では、それぞれの現場に合わせ  
てプログラムや曲間のMCを考え  
る必要があります。限られた時間の中  
で自分たちでコンサートを考える  
のは大変な部分もあります。でも  
本番は、お客様と距離が近いこと  
もあって、試験やホールでの演奏  
よりも直にお客様の反応が伝わっ  
てきて、喜んで頂けているのがわ  
かるのは、とてもうれしいことで  
す。授業を取るうかどうしようか  
と悩んでいる三年生がいたら、ぜ  
ひがんばって取ってほしいと思  
います。

松本 祐佳(ピアノ)



アウト

リーチ活  
動が経験  
できた学  
生生活は、  
とても実  
りある時

間だったと思います。音楽は人生  
を豊かにしてくれる、とそう思え  
た瞬間に幾度となく出逢えました。  
コンサート作りは、訪問する場所  
や人を知ることから始まり、一か  
ら生徒同士でプロデュースをして  
いきます。本番ギリギリまでよい  
ものを作るために力を出し合いま  
した。音楽性だけでなく、企画力  
やコミュニケーション能力を向上  
させる勉強にもなり、これから社  
会人となるために必要な力を身  
につける意味でも成長できた二年間  
でした。

太田 春菜(ピアノ)



一から  
プログラ  
ム構成を  
考え、MC  
と演奏を  
自分たち  
だけでや

り遂げることには始めは不安を覚えて  
いました。実際、大変なことも  
ありましたが、実習をやりきって  
最後に拍手を頂いた時の感動と達成  
感是非常に大きなものです。ま  
た、回を重ねる毎に確実に自分の  
成長を感じることが出来ます。相  
手の立場に立つこと、皆で協力す

ること、そして自分たちが何を伝  
えたのかを忘れなければ絶対に  
いいものができると思います。

高橋 輝(音楽)



自身のス  
キルアップ  
を目的に履  
修しました  
が、実際に  
活動を始め  
て私の考え

は変わりました。施設に応じてメ  
ンバーと作り上げたプログラムを  
実際に赴いて演奏してみると、た  
くさんのことに気付きました。能  
力の限界、お客様の反応、それら  
を通して感じたことは、音楽によ  
って生まれる絆で、この活動に参  
加しなければ直接感じることで  
きなかつたものです。将来、いろ  
いろな場所で音楽の絆を作る架け  
橋となるような活動をしていきたく  
いと思いました。

種村 ひかり(音楽)



私は演  
奏会作り  
を通して、  
曲目はも  
ちろん、



その順番やMCの単語一つまで気を配り、常に客観的な視点を持つことの大切さを学ぶことができた。実際の本番では思う通りに行かないこともありましたが、「あの曲が好き」「いつもはあんな風に話さない人なのに」といったうれしい発見もあり、音楽が持つ力と可能性を実感することができました。この貴重な経験は、この授業を履修したからこそ得ることのできたものと思います。

### 上野 緑 (声楽)



自分たちで考えて作ったプログラムを実際に訪問先で行い、その反応を直に捉えることで効果的に学びを得ていると感じます。レパートリーも広がりましたし、今まで気づいていなかった発声の癖にも気づくことができました。専攻実技にもよい影響がありました。園児から高齢者まで様々な方を対象とした実習先があるので、卒業後の音楽活動を見据えた実践的な学びができます。一授業というよりも副専攻プログラムの

ようで、頭も時間も使う取り組みですが、この授業をとって初めて知る自分の一面や個々人の可能性普通の大学生活ではきつと得られなかった友人との交流は大きな財産です。実習に参加すれば必ず気づきが得られます。少しでも興味があればぜひ履修することをお勧めします。

### 渡部 里紗 (ピアノ)



アウトリーチでは、音楽を演奏するだけでなく、どのように伝えるかということ深く考える機会になりました。試行錯誤しながら本番を重ねていく中で、一つのステージを作るための視点なども変わってきて、お互いに気づいた点を指摘し合うのもよい刺激になりました。忙しい中で時間を作るのは大変だったし、うまくいかないこともありましたが、MCや構成はもちろん、本番の緊張感など、この授業でしか学べないことばかりだったと思います。

### 「音楽によるアウトリーチ (講義)」

履修生 (三回生十一名)

声楽 草野舞、山下優子

ピアノ 藤井花織、向井千沙都

中村舞香、岡美咲、

齊藤明日香

ヴァイオリン 田村野々花

打楽器 山下すみれ

ミュージック・クリエイション

川上千晶、本田瑠璃

### アウトリーチ要員からの

メッセージ

谷田 奈央さん (五期生)



今年  
の履修  
生は、声  
楽専攻  
とピアノ  
ノ専攻

のみの学年でしたが、それが強みになるすばらしいアイデアやプログラムを作り上げていました。食欲に、積極的にいつも質問をしてくる彼女たちは、この一年間で演奏の魅せ方もコンサート中のお話も格段に上達しました。

教員よりも少し学生たちに近い立場で、これからも履修生のサポートをしつかり行っていきたいと思います。私自身、同年のアウトリーチ既修生と結成したグループ「アンサンブルちようちよ」が結成十周年を迎え、これまでに二百三十回の公演を行いました。後輩たちを導く存在でいられるように、今後も邁進していきたいと思っています。



## 2017年度 実習歴

- 6月 2日 (金) 西宮市立門戸幼稚園アウトリーチ  
7月 1日 (土) 子どものための七夕コンサート(シリーズ第 47 回)  
9月29日 (金) 西宮市立鳴尾北幼稚園アウトリーチ  
10月14日 (土) 第8回「音楽で遊ぼう！子どものための音楽作りワークショップ」  
10月28日 (土) 子どものためのスペシャル・コンサート(シリーズ第 48 回)  
11月 4日 (土) 野木病院アウトリーチ  
11月 9日 (木) 国立病院機構 兵庫中央病院アウトリーチ  
12月 9日 (土) 子どものためのクリスマス・コンサート(シリーズ第 49 回)  
12月15日 (金) 雲雀丘学園小学校アウトリーチ  
3月 1日 (木) 兵庫県立東はりま特別支援学校アウトリーチ  
3月 8日 (木) 国立病院機構 刀根山病院アウトリーチ

## 音楽をお届けします！！

「アウトリーチ」とは、「一歩踏み出すこと」「手をさしのべること」。

大学やホールといった従来の枠にとらわれずに、社会のさまざまな場ですてきな音楽のプログラムをお届けします。

♪小中学校へ:総合的学習支援プログラムとして、  
子どものための楽しい体験学習を！

♪病院や美術館へ:催しの趣旨に沿った手作りの音楽  
プログラムを、心をこめてお届けします。

お問い合わせは…

神戸女学院大学音楽学部 アウトリーチ・センター(月～金 10:00～15:00)  
〒662-8505 西宮市岡田山 4-1 TEL: 0798-51-8584 FAX: 0798-51-8551  
E-mail:outreach@mail.kobe-c.ac.jp http://www.kobe-c.ac.jp/musicdp/outreach/

## 編集後記

今年も大変充実した1年でした！本学の音楽によるアウトリーチ活動がますます発展していきますように♪(寺澤)

「子どものためのコンサート・シリーズ」に実習、と後期もたくさんのお届けしました！(森)

先輩たちの活動を批判的に見学していた3年生が4年生になって、実習で深く学んでいく様子が印象的です(津上)